

恋はぐだぐだ



恋はぐだぐだ

作・中野 守（中野劇団）

登場人物

松岡

麻子

荒木

遙

杉浦

ミラ

その年最も寒い冬の夜。部屋の中央にイーゼルに黒板タイプのメニューボードがあり、「今日のME NU」という文字の下に公演名等が喫茶店のメニュー風に書かれている。

部屋の隅にはノートPCの置かれた折れ足テーブル。部屋主の松岡がノートPCに重なるようにしてうたた寝している。

舞台大道具のテーブルや椅子、観葉植物、積み上げられた段ボール箱、部屋を狭くしている。

奥から缶ビール片手にタオルで髪を拭きながら現れる女。吉野麻子。松岡の横に座る。

松岡 麻子 松岡 麻子 松岡
え？ 誕^{よだれ}。？ お疲れ。

松岡、じんわりと目を覚ます。

麻子 松岡あ？

松岡、むにやむにや言う。

麻子 松岡あ？
……松岡あ？
……。

松岡、涎を啜る。

松岡 ……吉野？

麻子 久しぶり。

松岡 ？

麻子 だいぶお疲れみたいやな。

少しずつしか覚醒しない松岡。

松岡 ……え、何で吉野が俺ン家におんの？ え？ 何これ（状況）。

麻子 寝惚^ぼけてるわ。せやけど松岡と会うの何年ぶりやろ。

松岡 ？

麻子 ？

松岡 何で部屋入って来てんの？ というか、何これ（荷物）。

部屋中に大量の荷物が運び込まれているのが嫌でも目に入る松岡。段ボールには劇団名と「小道具」「衣裳」など中身の説明がマジックで書かれている。

松岡 何これ？

麻子 これ、ウチの劇団の。……さっきまで本番やって。今日、千穂楽やってん。

説明が終わったっぽい。

松岡 ……で？

麻子 で、劇団の倉庫までトラックで運ぶ予定やってんけど。トラック、ウチの劇団の

子が知り合いのスタッフの人から借りて来たんやんか。で、その子は明日返すって伝えてたつもりやってんけど、向こうは今日の晩までやって思ってたみたいで。はんですぐ返さなあかんってなって。どうしようってなって。倉庫まで行ってたら間に合わへんから、取り敢えず荷物全部降ろしてすぐトラック返しに行きって言うて。降ろした所がたまたま、松岡ン家の前やって。

松岡 だからそれが何で部屋の中に入ってんの？

麻子　せやねん。いやさっき凄いい雨降ってたんよ。で、あのう、濡れたらアカンやんか。

松岡　だから何で勝手に入れてんの？

麻子　インターホン何回も押してんけど、眠ってて聞こえへんかったみたいやったから。

で、玄関鍵が開いてたから。

松岡　入って来たなら起こせるやん。何で起こさへんねん。

麻子　はい。

麻子、松岡に紙袋を渡す。

松岡　……何これ？

麻子　公演の差し入れで貰ってん。よかったら……。

松岡、袋を覗く。差し入れの包装紙に『祝公園』の文字。

松岡　これ、字が……。

松岡、包装紙破る。中から巨大なタッパー。

麻子 (中を見て) お、ひじきの炊いたのや。

松岡 ……。

麻子 あ、どうぞ。

松岡 いや要らんから。あのさ、吉野――

麻子 つくしゅん！

くしゃみをする麻子。松岡、顔にかかった唾を拭う。

松岡 ……。

麻子 もうパンツまでぐっしょくしょくなってもうてさ。

松岡 ……。

麻子 何か着るもんじゃない？ 風邪引くかも。……ワイシャツとかあったら……。

松岡 それ(衣裳の箱) 何やねん？ こんだけようさんあんねんから、どれでも着たら

ええやん。

麻子 ホンマや。あるやんな。……リクエストがあれば着るよ？

松岡 ……。

麻子 ……これくらいしか（恩返し）できへんし。……ミニスカサント？ ん？

松岡 どれでもええから！ 何やねん、人ン家黙って上がり込んで、こんなに荷物入れて。

（痛） ツー！

松岡、ダンボール箱の中から知らない国の文字で書かれた飲食店のメニューを出そうとして指にトゲが刺さる。

松岡 何やねんこれ？

麻子 メニューー。

松岡 わかってる。トゲ刺さった。

麻子 そやろ。それほら外国のメニューやから。

松岡 木でできてるからや。何処の文字や……。どんな芝居や。

麻子 じゃあ、ちょっとスペース開けるわ。ここ、うまいこと積み直したら少し広くー

松岡 積み直すんやなくて、外に出して。

麻子 え？

松岡 持って帰って。邪魔やから。

麻子 でもほら、雨降ってるから。

松岡 ええから。

メニューボードを松岡に押し付けられる麻子。しぶしぶ、抱えて外に出す。戻って来ては缶ビールを飲む。

松岡 いちいち休まんど。……それ、うちの冷蔵庫に入ってた奴ちゃうん？

麻子 あんま冷えてなかったで。

松岡 何で飲んでんねん。

麻子 だって、劇団のみんな今頃打ち上げで飲んでるのにさあ、ウチだけ搬出で飲めへんかってんで。

松岡 知らんやん。

麻子 来週まで置いたらあかんかな。

松岡 あかんで、脚本書かなあかんのにこんな散らかされたら、あ！

慌ててノートPCに向かう松岡。

麻子 どしたん？

松岡 締切忘れてた。うわあもう間に合わへんやん。ああもう。

麻子 もうって、寝てたやん。

松岡 今何時？

麻子、時計を見る。

麻子 時計、止まってるやん。

松岡 それ、もうだいたいぶ前に壊れて。

麻子 これ、電池切れてるだけちゃうかな。電池入れたら動くんちゃうかな。ちよっと待っててや。

麻子、小道具箱から電池を出してきて時計に入れる。

松岡 (ボソ) 時間を教えてくれって。

麻子 凄いな。一軒家に住むなんて。

松岡 親戚が海外に行ってる間貸してくれてるだけやって。

麻子 誰かと住んでるん？

松岡 いや、一人……。ああもう、またや。

どこからゲームの音が聞こえてくる。

麻子 ……何？

松岡 裏に住んでる奴がゲームやってて、書こうと思ったただでっかい音で。気が散るねん。

麻子 大丈夫？

松岡 締切、今日の日付が変わるまでやのに。ああもう全然時間ないやん。

麻子 落ち着いて。イライラする要素ばっかりやナ。

松岡、麻子がその最たる要素だという顔。

麻子 お腹空いてるんちゃう？

松岡 そうや、昼から何も食ってないんや。

麻子 何か食べたら？ でも冷蔵庫何もなかったけど。ビールしか。

松岡 買いに行きたかってんけど、さっき無茶苦茶降ってたから出られへんかったんや。

取り敢えず先に書いてまわな……。

麻子 ……雨の中出ていくヒロインを、なかなか追いかける決心がつかへん主人公がも

どかしいな。

松岡 何で読んでんねん。

麻子 ほら動いた。

麻子、松岡に時計を見せるが松岡PCに没頭して振り向かない。麻子、携帯の液晶を見ながら時計の針を合わせる。

麻子 ラスト、まだ決まってるんや？

松岡 関係ないやん。……（時計を見て）ああもうあかな。

松岡、電話を掛ける。麻子、携帯を取り出し、メールを打ち始める。

松岡 ……ま、松岡です。どうもお世話になっております。……ええ、いえいえ、あり

がとうございます。……はい。……その件なんですけどね、……いやあのう、思ったより時間がかかりそうです。……すいません。それでできたらちよっと期限延ばしていただければと思います。……無理言うてるんはわかってるんですけど。二日、いや一日でも助かるんです。……はい。……いや、そこを何とか。……すいません。じゃあ先方へそない話だけ振ってもらえますか？ はい。お手間かけます。……はい、できるだけポッシブルでやりますんで。はい失礼します。

松岡、電話を切って、溜息。

麻子 どない？
松岡 禁煙。

麻子、出しかけていた煙草をしまう。

松岡　一応先方に頼んでみるって言うてくれてるけど、向こうがどないかわからん。

松岡、トイレに行きたそうにモゾモゾしている。

麻子　先トイレ行っといでや。

松岡　……。

麻子　大丈夫大丈夫。

松岡　……何がや。

麻子　ん？

松岡　吉野の『大丈夫』には根拠がないやん。

麻子　それ、よう言うてたな。珈琲入れたるか？　つくしゅん！　松岡、シャワー借りてええかな。

松岡　……（ため息）台所の奥。台所にストープあるから、服乾かしてくれたらええし。

麻子 ありがと。……ハッピーエンドが見たいな。

松岡 服乾いたら荷物何とかして。

松岡、トイレに行く。

麻子 ……。

麻子、押し殺していた緊張を吐き出すように息を吐いた後、ポケットからかんざしを取り出して、自分に頑張れとちっちゃく励ます。外は強風。犬の遠吠えが聞こえる。

麻子 ……（テーブルを触りながら）まだ全然使えるやん。劇団の倉庫いっぱいやしなあ。

このままここに置かしてくれたらええのに。

缶ビールを飲む。

麻子 ぶは。

積み上げられた段ボールのうち、「衣裳」と書かれた箱をまさぐる。

麻子

うーん。

黒い衣裳をひとつ手に取る。

麻子

この辺かなあ。

麻子、衣裳を抱え奥へ。

誰もいない部屋に一組のカップルが入って来る。

男の名は荒木。強面でスーツ姿。女の名は遙。麻子が適当に動かしたテーブルと椅子が、偶然喫茶店の一組のテーブル席のような配置になっている。麻子が先ほど「衣裳」の箱を動かしたため、それまで隠れていた、「土足のままお進み下さい」の札が荒木達の目に飛び込んで来る。荒木、店内の雰囲気、躊躇しながら土足で席につく。部屋の入口に躊躇して立つ遙。

荒木

……座りいや。

遙 ここ、ホンマに喫茶店なん？

荒木 看板出てたやん。

遙、着席。

遙 こんな遅うまでやってんの？ 店員は？

荒木 そのうち来るやろ。

重い空気。遙、携帯を取り出しメールを打つ。

荒木 なあ、どういふことやねん。

遙 ……。

荒木 遙、お爺ちゃんの葬式や言つてたよなあ。

遙 ……。

荒木 言つてたよなあ！

遙 怒鳴らんとってや！

荒木

答えろや！ 何でや。何で杉浦と二人で、デイ○ニイランドやねん。しかも泊まりでって。

松岡、戻って来るやいなや、二人の存在に驚いてバランスを崩し、麻子が置いていった箱の群れに身を突っ込んでずっこける。

遙

ちやうねん――

荒木

何がちやうねん！ こっちはおまえら二人が東京行きの新幹線に乗ってるのを目

撃しとんねん！

遙

隠れて見てたん？

荒木

ちやうわ！ 梅田行きの阪急乗ってたらまたまた窓からやな、横走ってる新幹線に乗ってんのが見えたんや！ そんな時その服やったやろ。

自分の服装を確認する遙。

荒木

何がお爺ちゃんの葬式や。ほんでお爺ちゃん三人目やないか！ 日記にちゃんと

付けたあんねん！ ホンマ信じられへんわ。俺は何やねん！

遙 ……わからへん。

荒木 わからへんって何や！

遙 わかれへんからわかれへんの！ 何でそんな怒るんよ！

荒木 そんなこと聞かか？（松岡に） えっと、カプチーノ二つ。

松岡 え？

荒木 あのな、自分の彼女が他の男と二人で旅行行ったって聞いて、怒らん男が何処に

おんねん！（松岡に） 以上で。（遙に） あのな――

松岡 ちょ、ちょっといいですか。

荒木 今大事な話してるから。

松岡 えと、そうなんですけど。あの、人ン家で何をしてるんですか。

遙 何かしんどい。

荒木 何やねんそれ。

遙 杉浦君とおる方が、楽しいわ。

荒木 何でそんなこと言うねん。

松岡 ちよっといいですか。

荒木 さっきから何やねん！

松岡 ……それはこっちの台詞ですよ。

荒木 は？

松岡 それはこっちの台詞ですよ！ さっきから何なんですか！ どういうことですか

これ！ トイレから帰って来たらいきなり見ず知らずの人間が土足で人ん家上がり込んで、別れ話してるって！

荒木 別れ話ちゃうわ！

遙 え？

荒木 「え？」って何やねん。「え？」って！ 別れ話のつもりやったんか！?

遙 ちゃうって。そういう意味と。

荒木 思ってたから「え？」って出たんやろ！

遙 ちゃうって！ 思い出し「え？」やんか！

荒木 何やねん、思い出し「え？」って!?

松岡 無視すなあ！

二人 ?

松岡 別れ話でもちやうかってもどっちやでもええんですよ！ 君ら誰なんですか！

何で俺ン家なんですか！

荒木 知らんやん。

松岡 知らんて！ そんな言い草ないでしょうが！ 説明して下さいよ！

荒木 せやから遙がお爺ちゃんの葬式やって言うてたくせに、お爺ちゃん三人目で、せやけど家庭事情が複雑っぽいこと言うてたし、三人いるんかなって信じようって思ってたのにやなあ！

松岡 喧嘩の理由聞いてるンちゃいますよ！ 何でここにおるんかを聞いてるんですよ！

荒木 そない言えや！

松岡 そこはわかって下さいよ！

遙 ……せやから真剣な話したいから、取り敢えず落ち着けるとこに入ろうかってことになって、ほんで……ここに。

犬の遠吠え……。

松岡 ……それは何処の国の風習ですか。意味がわからん。さっきから聞いてたら何な

んですかこれ！ え？ ちよつとわいてはるんですか！

荒木 は？

遙 (ヒソ) せやからウチ、ここはやめといった方がええって思ってたのに。

荒木 今更そなん言うなや！ 入る前に言えや！ 何やねん！ いったも人に決めさ

せといて、文句だけ言うて！ 何処でもええ言うてたやないか！

松岡 何でそこに民家を含むんですか！

荒木 んなもん民家やなんて誰も思わへんやないか！ 紛らわしいねん！ ほんなら「民

家」って書いとけや！

松岡 「民家」って書いてる民家が何処にあるんですか！

遙 タミイエ先輩ン家、表札に「民家」って書いてた。

松岡 それはタミイエって書いてんでしょ！ 何の話ですか！ そんないいんです

よ！

荒木 そうや、何で杉浦やねん！ いつからや。

遙
いつからってそんな。

松岡
いや、そんな話やなくて。

荒木
それまでもどうせ何回か会ってたんやろ。俺が阪急の中から見かけんかったら

……。大体、俺と付き合ってからだけでお爺ちゃん三人や。今まで通算何人死んでるねん。

遙
……。ゼロ。

荒木
全部嘘か！

遙
あとの二回はバイト休みたくて。

荒木
そんなんでお爺ちゃん殺すかなよ。……。ほんで俺まで騙すことないやろ。丁寧に喪中葉書まで送ってきて。

遙
だって幸助、店長と顔見知りやし、何処からバレるかわからんやん。

荒木
もつと普通の理由で休んだらええやろ。

遙
だって店長疑って来るねんもん。

荒木
嘘つくからやろ。ま、それはええわ。杉浦は俺のツレや。氣い遣って会わへんのが常識ちゃうんか！

松岡

その常識の話なんですけど……。

荒木

良心が咎めたりせえへんの？

遙

お爺ちゃんは別にええって。

荒木

俺にや！ え？ お爺ちゃんに言うたん？ ええ？ てか、お爺ちゃん孫に甘過

ぎやる。そんなもん俺がお爺ちゃんやったら――

遙

つき合っていないわ！

荒木

ちよ、聞けや！

松岡

うわ（イタいな）……。

荒木

……なあ、何で行ってん。

遙

だって杉浦君が強引に誘って来るから。

荒木

断ったらええやん。遙にも隙があったんちゃうん。

遙

ウチにはっか言うけど、幸助かてウチのこと全然構ってくれへんかったやん。本

番かて観に来てくれへんかったし。

荒木

せやから年度末の絡みで忙しなる言うてたやん。

遙

メールかてろくに返してくれへんし。

松岡 あの、靴――

遙 「ミッ〇―に会いたい」言うても、「ミッ〇―は金のない奴とは会わへんねん」って。

荒木 ミッ〇―が言うわけないやろ！

遙 幸助が言うたんやん！

荒木 言うてないわ！

遙 言うたやん！

荒木 今は金欠やって言うただけやろ！

遙 同じやんか！

荒木 全然ちゃうやろ！

息切れする二人。どこから聞こえて来るTVゲームの曲。

遙 こう（手を両側からすれ違わせて）やんか！

荒木 （突然反撃されて驚き）何がや！

遙 さっきの思い出し「え？」で言おうとしたことやんか！

荒木 何の話や！

遙 さつき梅田行きって言うてた。

荒木 言うたよ。

遙 新幹線と逆に走ってるやん！ ここう（手を両側からすれ違わせて）やんか！

荒木 は？

遙 阪急が一〇〇キロ、新幹線が二五〇キロとしても三五〇キロでここう（再び手をク

ロス）やんか！

荒木 その時は信号待ちかなんかでゆっくりやったんや。遙、杉浦に冷凍みかんあーんっ

てしてたやろ。

遙、気まずそうな顔。

松岡 ……あーんってしてたんですか。

遙 ……してた。

松岡 何であーんってしたんですか。

遙 だって……。

荒木 新幹線と阪急が横に並ぶトコまで新大阪からせいぜい十分から十五分。乗ってす

ぐや。乗ってすぐあーんか。あーんする気まんまんか。

俯く遙。

遙　ずっと行きたい言うてたのに。

荒木　ほんで杉浦とか。あつそ。

遙　杉浦君、時間作ってくれるもん。

荒木　あつそう！　杉浦と行くってわかってたら、チケットも休みも取るんやなかったわ！

遙　え？

松岡　あらら。

遙　チケットって？

荒木　もうどうでもええやん。杉浦と行ったんやったら。

杉浦、息を切らしてやってくる。外はかなり寒いらしい。

松岡

？

遙

杉浦君？

杉浦

やっぱここか。

荒木

杉浦！ おまえ、どういうことやねん！

杉浦

ちよちよちよ、待てって荒木！

松岡

うわああああ！

三人

？

松岡

わけわからんわー！ 自分こそちよと待てやで杉浦君！ 何でここに来るねん！ 何や、「やっぱここか」って！ 「やっぱ」って何やねん「やっぱ」って！
ああもう！ ちんこ取れそうやー！

杉浦

誰？ この気色い人。

荒木

俺が先に質問しとんねん！

遙

大丈夫？ ちんこ。

松岡

比喩や！

荒木

おまえ先週の週末、泊まりで博多行く言うてたよなあ！

遙 比喻って何？

松岡 流して下さい。

杉浦 ちよっと席外しててくれへんかな。

松岡 しばらくで。ホンマしばらくで。ホンマしばらくで。ホンマ。ほんで、「やっぱ」って何？

杉浦 比喻や！

荒木 博多にライブ観に行く言つてたよなあ！

松岡 比喻って何？

杉浦 流して下さい。

荒木 ライブ観に行つてたんとちゃうんか！

杉浦 せやから……。

荒木 せやから何や！

杉浦 ……遙ちゃんとディ○ニイシーに行つてた。

荒木 ……シーか！ ランドちゃうんか！

杉浦 シーの方。

荒木 遙、おまえランドや言つてたやないか！

遙 シーの方。

荒木 ふざけんなよ。おま、ふざけんなよ！

松岡 何でそんなシーに引つかかるんですか。

荒木 おま、何考えてんねん！

杉浦 背中、蚊に噛まれた。

荒木 しばくぞー！ 何でシーやねん！

杉浦 俺と遙ちゃんはそういうんとちゃうねんって。(遙に) 荒木に言うたん？

遙 新幹線に乗ってるの、阪急から見えてんて。

杉浦 ああ、冷凍みかんの時や。

松岡 ああ、全員、靴を……。

荒木 何でシーやねん。

松岡 何でそこに拘るんですか！ シーに何があるんすか。

荒木 人魚姫とか、……あと、人魚みたいに下半身が魚のミッ○ーとかがおるんやろ。

杉浦 ミッ○ーはあんまおらんかつ——

荒木 言うなあ！

杉浦 ポ□リがいた。

荒木 嘘つけえ！

杉浦 それより荒木、俺が来る前にチケット取るんやなかったって言うてたやんか。

荒木 何で来る前の話がわかるねん！

遙 幸助、それってどういうこと？

荒木 ……もうええやろ。

遙 ええことないよ、だって金ない言うてたやん。

荒木 ……。

遙 もしかして、あれ使ったん？ ガンダム貯金。

杉浦 え？ おまえ、ガンダム貯金に手出したん？

荒木、杉浦を睨む。

杉浦 睨むなよ。

松岡 何スカ、ガンダム貯金って？

遙 幸助、中学のときから筆記貯金してて。本物のガンダム買ったために。

杉浦 一言、言うてくれよ。

荒木 驚かせよう思ってたんやないか。

松岡 ニュータイプ？

杉浦 なあ、チケットっていつの分なん？ もう日過ぎてんの？

荒木 今日の夜行バス。

杉浦 今日なん？

荒木 せやから明日明後日で向こう回るつもりで。ホンマ代わりに誰か連れてったろかな。

杉浦 荒木。

松岡 ガンダム諦めたわりに夜行バスなんや……。

杉浦 なあ、話、聞いてくれよ。

荒木 ああ、聞いたるから、遠回しにごちやごちや言わんと、はつきり言うたらええやろ。遙を寝取ったってよ！

荒木、携帯を取り出す。

荒木

取り敢えず座れや。

杉浦

座れったって、椅子が。

荒木、突然満面の笑みで電話。

荒木

もしもしい。荒木ですう。お世話なってますー。こないだはどうもお。ええとこ連れてってもらいまして。あの後は？ ……ナハハハハハハ。そうですかあ。

杉浦、遙とひとつの椅子を共有して座る。

荒木

……ああ、その話ですか。こっちも気になってたんですけど、どないです？ ……遅らせたかい？ ああ……。……まあ松岡先生にはこっちも無理言うてお願いしてる身なんで。

松岡、「俺のこと？」という身振り。荒木、手持ちぶさたっぽく、床にある枕を取り、電話をしながらいじくっている。

荒木

……いや、明日明後日は休み貰うつもりやって、休み明けでもええって言おうか
思ってたんですけどね。状況変わって今から事務所戻れそうなんだ。

松岡

え？

荒木

それやったら今晚見たいなって思っうて。いや、まだわからないんですけどね。……
ナハハハハハハ、それ意味同じですわ。できるだけとポッシブルって。

松岡

！

荒木

……ええ。決まったら連絡しますわ。……はい、どうも。（電話を切る）アホかあ！

荒木、杉浦に枕を投げつける。杉浦、椅子から落ち、更に床で足をぶつけて転げ回る。

杉浦

だって椅子が。ちょ、頼むから話聞いてくれって。

松岡

あの……。

遙

もうええよ。杉浦君。フォローするだけ無駄やわ。全然信用してもらえへんねんから。

杉浦

そんなこと言わんと、荒木も遙ちゃんも仲直りして二人で行っといでよ。

荒木

何で散々かき回した張本人がその立場やねん。

杉浦 荒木かて、遙ちゃんが行きたかったからチケット取ったんやろ？ 行けば何とか

なるって。(松岡に)なあ。

松岡 絶対行くべきです。

杉浦 な。俺かて荒木と遙ちゃんの仲を裂くつもりなんかハナからなかったんから。せ

やから手出してないし。

荒木 当たり前や。

杉浦 今日なんやろ。せやのに喧嘩してる場合とちゃうんか。二人とも今すぐ仲直り

して。シーが待ってるから。

松岡 何ならもう二、三泊延長してくれても……。

荒木 いやもう事務所戻らなあかんようになったから。

杉浦 週明けでもええんやろ。

荒木 あかんねんて、この先生の原稿は目え通すのに時間かかるみたいやから。よう見

とかな下ネタとかあっちゃこっちゃ埋め込んでるって。

松岡 そんなことないですよ。

荒木 え？

松岡 いや。

荒木 後の日程もずれ込むし。

杉浦 どっちが大事やねん。仕事とミッ〇ーと。

遙 いや、仕事とウチ……。

松岡 荒木さん、ディ〇ニシーですよ。

荒木 ……行きたいならあげるけど。

松岡 僕はこっちにおらな意味ないんですよ。

荒木 え？

松岡 いやその、遙ちゃんと行くためにチケット買ったんでしょ？

遙 勝手に入って来んとってよ。

勝手に部屋に入って来られた人に言われて理不尽さを感じずにいられない松岡。

松岡 ……（荒木と遙に）そのね、こういうのほっとけへんタチなんですよ。迷子の恋っ

て言うんですか。

杉浦 向こう行ったら日頃抱えてる嫌なこと全部吹っ飛ぶから。行った人間が言うてる

んやから。

松岡 まだ回ってないトコ回ったらええんですよ。

杉浦 そうそう、俺らメインのええとこしか回ってないから。

松岡 杉浦君、ちょっと息を引き取ってて。

荒木 そんなに良かったんなら、もっかい二人で行って来たらええやろ！

荒木、チケットをテーブルに叩きつける。

杉浦 荒木。

荒木 ……俺もう仕事行くから。

荒木を引き留める松岡。

松岡 ちょ荒木さん待って。

荒木 もうええから。

チケットを荒木に持たせる松岡、拒む荒木。松岡、止める勢いが激しすぎて、チケットを荒木の口に入れようとする。

荒木　ちよつとお！　何やねん！

松岡　いや、その、まるで昔の青い頃の自分を見てるみたいで。こんな終わり方、絶対、

後悔しますって。せやから、二人で、デイ○ニシーに行つときましょ！

遙　もうええって。

松岡　何かもうええんですか！

遙　えええ？

松岡　下半身魚のミッ○ーに会いたくないんスカ！

荒木　いやあの……。

松岡　行かんでもわかるって言うんですか。それはウオ○ト（親）に失礼なんとちやいますか！

荒木　どっちにしても今日はもう無理やから……。

松岡　今日しか見れへん星空もあるでしょうが！

荒木　えええええ？

杉浦 どないしたん。発作？

松岡 君が全部悪いんやろが！……荒木さん、結論、そない急がんでもええやないですか。今は許せへんかってても、そのうち消化できますって。それでも行く言っんやったら、せめてその前に注文しはった珈琲、飲んでって下さい。

荒木 さっき自分、民家って。

松岡 ……民家フエです。

荒木 民家フエ？

松岡 新しいスタイルのカフェなんです。知らんかなあ？ ……監獄風居酒屋って昔流行ったでしょ？ あれの民家版の喫茶店版みたいな。

荒木 ほな、今までのやりとりは何やったん？

松岡 ショ、ショウタイムです。丁度ショウタイムの時間やったんですよ。

荒木 そうなん？ そのわりには客他におらんけど。

松岡 ホントさっきまでお客さんでこった返し……。

松岡、振り向くと、麻子がウエイトレスの衣裳に着替えてお盆にマグカップを乗せて立っている。

松岡 少々お待ち下さい。

松岡、慌てて麻子のそばへ。

松岡 (ヒソ) 何やってんねん。

麻子 え? ヒック。エへへへ。

松岡 何でまた勝手に飲んでんの?

麻子 いつもシャワー浴びたら飲む習慣があつて。

松岡 人ん家やろ?

麻子 んん?

松岡 もう。どんだけ飲んでん。ほんで何やねんその格好。

麻子 可愛いやろ。……松岡、あの人ら誰?

松岡 ……客。

麻子 客?

松岡 ここを喫茶店と思つてる。

荒木、スケジュール帳に何やら頑張って書き込んでおり、その横で杉浦が荒木にいろいろ弁解している。

麻子 ……酔うてはんの？

松岡 おまえや。

麻子 喫茶店て。

松岡 そういうことになってもってん。その珈琲出してきて。

麻子 違いますって言うたらええやん。

松岡 喫茶店で通さなあかん事情ができてん。

麻子 事情って。

松岡 あの男の人、荒木さんて言うねんけど、俺に執筆依頼してきた先方みたいやねん。

麻子 何それ？ え？ どっち？

松岡、振り返り荒木達の方を見る。

松岡 何か頑張ってる方。

麻子、衣服を整えていて見ていない。松岡、麻子の方に向き直る。

麻子 頑張っつかいてる方？

麻子が目をやると、荒木はメモを閉じており、杉浦が突然背中を頑張っって掻きはじめる。

麻子 (了解の)ん。

松岡 向こうは俺のこと気づいてないみたいやけど。ほんでな、元々明日明後日女の子、遙ちゃんと言うねんけど、遙ちゃんとディ○ニイシーに行くつもりやったみたいで。それやったら締切週明けまで延ばしてもらえるねんけど、遙ちゃんがもう一人の杉浦君って方と先週シーに行ったって言うねん。

荒木、何の話をしてるのだろうという表情で、麻子達の方を見ている。

麻子 ……ふてぶてしい顔してるわ。

松岡 逢ちゃんは杉浦君とは何ともなかったって言うてるねんけど。あの二人が別れて

もうたら、シー行きがなくなるから、今から仕事場戻るって。そしたら延期はなしやって。

麻子 てことは？

松岡 あの二人の仲にかかってるってことや。出てったらもう修復は難しそうやから、こ

こで何とかせな。状況飲めた？

麻子 んん？

松岡 もうええわ。とにかくここは喫茶店ってことになったから、頼むわ。それ出して来て。

麻子 小道具の営業許可証とかあるで。

松岡 そこまではええから。

松岡、奥の部屋へ。麻子、テーブルへ。荒木達、麻子の衣裳を見て時が止まる。

麻子 お待たへしました。

麻子、テーブルにビールを置く。

遙 ……カプチーノ頼んだんやけど。

麻子 はい。

遙 これ、ビールとちやいます？

麻子 カプチーノです。

遙 何処がカプチーノなんですか。

麻子 ……泡が。ンフ。

遙 いやあの、ンフって……。

麻子 キヤハハハハハハハハハハ（ツボにはまる）。

遙 酔うてるやん。何この店。

笑いすぎて呼吸を乱す麻子。

荒木 （杉浦に）座れや。

杉浦 ああ。（麻子に）すいません。

麻子 麻子です。

杉浦 麻子さん。

麻子 麻ちゃんです。

杉浦 麻ちゃん、椅子も一つひとつ……。

麻子 椅子？ あ、はい。

麻子、持っていたお盆をその場に放り投げ小道具と書かれた箱の中から分解された椅子を取り出し、組み立てて渡す。

杉浦 え？

杉浦、怪訝な表情で座る。

杉浦 麻ちゃん、何か食べ物頼みたいねんけど。

麻子 どうぞ。

杉浦 ……いや、あの、メニューは？

麻子 え？

杉浦 メニュー。

麻子 あ、ちよっと待っててな。

杉浦 タメロ？

麻子、お盆を小道具とマジックで書かれた段ボールからメニューを出す。

麻子 はい。

メニューを杉浦に渡し、荒木の横へ。荒木の肩に手をやる麻子。

麻子 ……店長から大体事情聞いたよ。先週の週末のこと。

荒木 何で喋るかな……。

麻子 ……良心の呵責は、なかったんかな？

荒木 ……あつたらこんなことにならへんのとちやう？

麻子 そう。……遙ちゃんとは何もなかったって言うてるみたいやけど。そこ
んとはどうなんやろ。

荒木 ……俺かてそう思いたいけど、夜の杉浦君は人格が変わるから。

麻子 ……酷いな。

荒木 寝取られる方が悪いんかもな。

麻子、お盆を拾って、荒木の頭をはたく。

荒木 ！

麻子 あ、すいません。

荒木 ？

麻子 (杉浦に) あんなに負けたらあかんで。ほな、決まったら、呼んでな。

麻子、奥の部屋へ。杉浦、メニューに目を通す。

杉浦 (外国の文字で) 読めへん。

荒木 何でもええやろ。

杉浦 (奥に) すいません。

松岡、呼ばれて戻って来る。

松岡
はい？

杉浦
注文いいですか。

松岡
え？ 注文？

杉浦
(メニューに書かれた料理名を指して) これ……。

勿論文字が読めないので、メニューと杉浦を交互に見て考える松岡。

松岡
……ひじきの炊いたのがお一つ。以上でよろしいですか。

杉浦
え？

松岡
じゃあ、メニューお下げします。

荒木
喫茶店ちゃうんか。

麻子、出て来る。

松岡 何でこんなことに……。

麻子 店長。

松岡 え？ あ、はい。

麻子 風が強くなってきました。

松岡 そんな報告は要らないです。

麻子 看板入れて来ます。

麻子、玄関へ。

松岡 ……おまえかあ！

松岡、奥へ。麻子、看板を中へ戻す。荒木、煙草をくわえる。

麻子 おい、そのチンコ。

荒木、くわえていた煙草を落とす。

荒木 …… (俺) ?

麻子 禁煙や。

麻子、奥へ。荒木煙草の箱をしまう。

荒木 (杉浦に) 何笑つとんねん！

杉浦 笑うてないわ！

荒木 ホンマ、何でこんなトコでおまえと出くわさなあかんねん。つけてたんか。

杉浦 んなわけないやん。遙ちゃんからメールもらってんて。

荒木 はあ？

肩を露出した薄着の女性ミラ、手にジュースの缶を持って凍えながら部屋の入口に立っている。

ミラ すみません。ジェフを呼んで下さい。

杉浦 ……え？

ミラ ジェフを。

杉浦 あの……。

ミラ 前の道で車止めてジュース買ってたんです。そしたら鍵を、ついあの、インキーしちゃって。

杉浦 えっとあの。

荒木 あの……。

ミラ で、あのジェフ呼ぼうと思ったんですけど、携帯も車の中で。それでえっと、ジェフを呼んでほしいんですけど。

麻子、奥からゴミ袋を持って出て来る。

荒木 (麻子に) すいません。

麻子 んぱっぱよ、ちゃむかんまん。(忙しいので後にしてください)

麻子、玄関へ捨てに行く。

荒木 ……。

杉浦 あの、JAFですよね。

ミラ あ、JAFです。

荒木 ミラさん？

ミラ はいそうです。あ、荒木君？

荒木 びっくりしましたよ。いきなり入って来てジェフ呼んでくれて。

ミラ 電話貸じで。

荒木 あ、はい。JAFの番号調べますわ。

遙 幸助の携帯に登録してる。

荒木 ……え？ 何で？

荒木、携帯を取り出し、確認する。

千鳥足で戻って来る麻子。

荒木 ……ジャンカラ、ジャロ、JAL、ジャマイカ。何これ。めっちゃ登録してるやん。
遙 便利かと思ってる。

荒木 何で勝手に……。ジャマイカは要らんやろ。

麻子、足を止める。

麻子 ……ジャマイカは存在しなくてもいい国って意味ですか？

荒木 え？

麻子 レゲエに市民権はないって言いたいんですか？

荒木 いやあの、……違います。

麻子 そ。

麻子、フラフラと歩き出す。

荒木 ……（JAFの番号が）何処にあるねん。

麻子 （振り返り）中南米や！

三人 ……。

麻子 ……刺すぞ。

麻子、奥の部屋へ。荒木達ちよつとトーンダウンする。

荒木 ……番号、何処や。

杉浦 今見てたやろ。

荒木 JAFの。

遙 もうちよつと上。

荒木 あった、これ。

ミラ ありがとう。

ミラ、荒木の携帯電話を奪うように取る。

遙 誰？

荒木 えっとミラさんって言うて……。

荒木君はウチのパパの会社の社員なんです。

杉浦 パパ……。

ミラ パパって、そっちのパパじゃなくて。

杉浦 わかってますよ。

ミラ 不適切な関係の方です。

杉浦 ……。

ミラ、電話をかける。

ミラ もしもし、あの、JAFです。違う、JAFさんですか。いつもお世話になってます。

遙 いつも？

ミラ ちよっと、鍵をインキーしたんです。はい、あの、そうです。はい、はい、それで来てもらいたいんですけど。……今、民家フェにいます。……住所？ 荒木君、

ここの住所って？

杉浦 桜町二の七の十八。

ミラ 桜餅胃の中で蒸発……。

杉浦 桜町二の七の十八！

ミラ 車種ですか？

杉浦 すかされた。

ミラ エルフです。

荒木 トラック？

ミラ ……わかりました。……はい。じゃ、こちらの番号に。はい、お願いします。

ミラ、電話を切る。

ミラ 今から来るって。

荒木 そうですか。あ、どうぞ座って下さい。

ミラ あ、はい。

ミラ、着席。

荒木 御無沙汰してます。

ミラ ……そっか、冷凍みかんを……。

荒木 だから何で話わかるんですか！

ミラ 外にいたら話聞こえて来たのね。

荒木 いつから外におったんですか！

ミラ 女の子の声で、こーう（違うポーズ）やんか、って。三五〇キロでこーうやんか、って。
遙 違うわ！

松岡、皿にヒジキを盛って出て来る。

松岡 ひとり増えてる……。

ミラを見てその場でへたれ込む松岡。

ミラ 何かあったの？

松岡 これかぁ。

松岡、看板に気づき、項垂れる。

荒木

……俺の彼女が俺の知らん間に俺の親友と思ってた奴とディ○ニィシーにお泊まりしてたんです。

遙

幸助。

ミラ

シー？ ランドじゃなくて？

松岡、テーブルに皿を置く。

松岡

やっぱ、そこに拘るんですか。シーに何があるんですか。

ミラ

知らない。けどたぶん上半身魚のミッ○ーとかが。

松岡

そんなミッ○ーは、子供も泣き出すかと。

ミラ

彼女がシーにねえ。それでこのカップルに慰めて貰ってたんだ。

荒木

え？ いやあの。

ミラ

そっかあ。そんな人の気持ちのわかんない娘、もういいじゃない。

荒木

せやから。

ミラ

それとも、あれ？ 可愛い娘だから諦められないとか？ 因みにどんな娘なの？

牛に喩えたら。

遙 何で牛限定なんよ。

ミラ 海牛？

遙 海牛、牛ちゃうやん！

荒木 セヤからここにおる遙が彼女やったんです。

遙 何で過去形なんよ。

荒木 合うてるやろが。

ミラ ああ……。

杉浦 (ひじきを食べながら) すいませんね、何かぐだぐだなどこ見せて。

荒木 おまえが言うな！

ミラ ……えっと、(曖昧に) フフ子ちゃん？

遙 遙。

ミラ 怒ってるよね。ごめんね。可愛い娘とか言っちゃって。

遙 そっちななくて、海牛！

ミラ 海牛ごめんね。それでこっちの彼は……。

遙 何で今海牛に謝ったん？

ミラ あ、ホントだ。でこっちの彼は？

荒木 杉浦っていうて、僕と大学時代同じ学科で。まあけどこいつは補欠の繰り上げで入ったんですけどね。

杉浦 荒木とは霊長類の同じヒト科で。でもこいつは補欠の繰り上げで――

荒木 遅れて進化してきたみたいに言っな！

ミラ 羨ましいな。そうやって喧嘩できる相手がいるって。何か兄弟みたいで。あ、ごめん。兄弟って、そういう意味の兄弟じゃなくて。

松岡 パンチドランカー？

ミラ えっと、聞いて聞いて。ミッ〇ーの物真似できるんです。……オッス！

遙 言わへんわ！

落雷。

ミラ ……す、凄いツツコミ。

遙 ちゃうわ。

ミラ 近くっぽかったね。

杉浦 珍しいな。こんな時期に

ミラ どうしたの？ 荒木君？

荒木、顔が強ばってる。

遙 幸助、雷苦手やから。

ミラ そうなの？

遙 怖い話とかも苦手やし。

荒木 ええやろ別に。

ミラ (怖い話の雰囲気で) ツアー中にホテルで聞いた話なんだけどね。そこに昔ある歌手が泊まったの。

杉浦 (興味もって) はいはい。

ミラ その歌手って、齒茎にびっしリニキビのある人なんだけど、その人が――

荒木 あのだ！

ミラ 何？

荒木 それが既に怖いんですけど。

ミラ 全然まだ話始まってないんだけど。

間。

ミラ JAF遅いね。

荒木 さっき呼んだとこですから。どつか行く予定ならタクシー拾った方が……。

ミラ うん、いいの。あの、打ち上げだから。どうせ、携帯ないと何処でやってるかわかんないし。ホント今日は私どうかしてる。それにトラック置いていくわけにもいかないから。ツセーリゲンシヨー（くしゃみ）！

荒木 ミラさん、何か温もるもん頼みます？

ミラ あ、うん。（松岡に）すいません。

松岡 ？

ミラ カクテルはどんなのができるのかな？

松岡 どんなんがって言われても、ビールにひじき入れるくらいしか。

ミラ 荒木君、（立ち上がる）店代えて二人で飲もっか。

松岡 あ、いや、カクテル、何でも言うてもらったら作りますんで。

荒木 ミラさん、あきませんよ。運転するんですよ。

ミラ トラック朝まで置いておくし。

松岡 いや、前、一通ですから。

ミラ じゃ、珈琲で。

松岡 かしこまりました。

遙、がばつと立ち上がる。

松岡 ああ、遙ちゃん、待って！

遙 トイレ何処ですか？

松岡 あ、こっちです。

松岡と遙、奥へ。

杉浦 荒木、時間のこと、ちょっとは頭に入れててくれよ。

荒木 だから行かへんって。

ミラ 時間って？

杉浦 ホンマやったら荒木と逢ちゃん、今から夜行バスに乗ってデイトニシールに行く予定やったんですよ。

ミラ あれ？ 先週行ったんだよね？

杉浦 それは俺と逢ちゃんです。今日は荒木と逢ちゃんが行く予定です。けど、急に行きたくないとか言いだして。

荒木 おまえのせいやろ！

ミラ バスって何処から？

荒木 大阪駅ですけど。

ミラ 何時のバス？

荒木 いや、今日はもう……。

ミラ 何バス？

荒木 え？

ミラ え？ 何人乗り？ え？ 運転手何て人？

荒木 何でそんなバスに食いつくんですか。

ミラ あれだったらトラックで送ってあげるから。間に合わなかったら、そのまま東京

まで飛ばしてあげるし。

杉浦 荒木、そうしてもらえ。

荒木 いや……。

ミラ あの、デイ○ニィシーって何処にあるの？

杉浦 関空がこことするやん。

荒木 何で関空から説明するねん。

杉浦 ここがデイ○ニィ野な。

荒木 ……泉佐野や。

杉浦 この辺にデイ○ニィ大津があって。

荒木 泉大津や。

杉浦 その隣。

荒木 和泉市や！ イズミィシーや！ ☆×※るぞ！

麻子、戻って来る。

麻子 すいません。他のお客様に迷惑ですんで。

荒木 他におらんやん。

麻子 できれば自爆して下さい。

荒木 何でやねん。

麻子 何でか、自分の胸に手当てて考えてみたら？ 杉浦君。

荒木 ……俺、荒木やけど。

麻子 は？ 何言うてんの？

荒木 麻ちゃんこそ何言うてんの？

麻子 え？ あれ？ ……てことは、……ダブル荒木？

荒木 ちゃうやん。そっちが杉浦。

麻子 ？

杉浦 ？

麻子 ……杉浦君？

杉浦 はい。

麻子 ああ……。あそう……。……。ま、こういうこともあるよね。あるある。おまえかー！

麻子、杉浦の椅子を蹴る。杉浦、椅子から転げ落ち、その拍子に何処かぶつけたらしく、床で転げ回る。麻子、土下座。

麻子
すませんした！

荒木
あの……。

麻子
生殖器呼びわりしてすいませんでした！（杉浦に）おまえも謝れ！ 遙ちゃんとやったこと謝れ！

杉浦
変なこと言わんとしてや麻ちゃん！ ちゃうねん荒木。遙ちゃんな、おまえとすれ違いが続いてて凹んでたから、向こうですとおまえのフォローしとったんや。

荒木
冷凍みかんもか。

杉浦
あーんて言われたらあーんてするやろ。

麻子
ほな、死ねって言われたら死ぬんか？

杉浦
麻ちゃん、ちよっと黙ってて。遙ちゃんかてちよっと気晴らしが必要なだけやってんて。荒木が、仕事仕事で全然会われへんで。荒木、遙ちゃんとの時間全然作ってなかったやろ。

麻子 成程な。こういうのを盗人ただけしいって言うねんな。

杉浦 ちよ、待ってよ麻ちゃん。

ミラ 気晴らしって、大事ですよ。うちのバンドのベースの子もね、相談受けてたん

だけど、別に何も、違う、あの子はやったんだ。

麻・杉 わぁ！

杉浦 (荒木に) ないって！ 二人ともそれはわかってるから。

麻子 とかはざいてますけど。

……遙は杉浦がしつこくて断れへんかったって言うてたぞ。

杉浦 ……バンドやってるんですか？

荒木 話逸らすな。

ミラ 今ライブの帰りで打ち上げ行くとこで。

麻子 あ。

ミラ 麻子……？

麻子 あ、ひ、久しぶり。

気まずい雰囲気の子とミラ。

ミラ 今、何やってんの？

麻子 えっと、バイト。

ミラ そう。劇団の方で成功してるって聞いたけど。

麻子 えっとあの、自分こそ今何やってるん？

ミラ ベビーパウダーってバンドやってる。

杉浦 ベビーパウダー？

ミラ ？

杉浦 ミラって、もしかしてベビーパウダーのミラさん？

ミラ うん。

荒木 知ってるん？

杉浦 うーわ。マジすか。俺親衛隊に入ってるんですよ。

ミラ 親衛隊なんてあるんだ。

杉浦 ああ、気づかなかったなあ。

ミラ だってほら、ライブの時は白塗りだし。鼻とか口とか。

杉浦 さっき「痛い子」とか言うてもうてすいませんでした。何で声で気づかんかった

んやる。ライブいつも行かせてもらってます。

ホント？ 先週の博多も？

杉浦 そのときはちよっと野暮用で某テーマパークに――

荒木 野暮用って何やねん！

杉浦 そっか、ベビーパウダーかあ。

麻子 ようカラオケで歌わせてもらってる。あのギターの子何って言うたっけ？ いつ

もエロい格好の子。

杉浦 栗栖川トリス。

荒木 最低や。

杉浦 あの人幾つなんですか？

ミラ 私と同じ。

荒木 同じって言うてましたね。てことは俺より幾つ上なんかな。

ミラ 私、荒木君の一個下だよ。

荒木 下でしたっけ？

ミラ 何言ってるんの荒木君、私とエロい子とは下じゃない。

荒木 そうでしたっけ。

荒木、遙が奥から出て来る。

ミラ 荒木君、私とエロイコトシタじゃない。

荒木 はいはい。

遙、ショックのあまり持っていたバッグを床に落とす。荒木、遙に気づく。

荒木 遙？

遙 ……何エロいことしたんよ。

荒木 違う！

遙、椅子に置いていた自分の荷物を取って外へ飛び出す。

杉浦 遙ちゃん！ ちょっと待って。遙ちゃん、誤解やつて。荒木、早よ引き留めて！

ミラ どうしたの！ 何かあったの？

麻子 あんたのせいや。

荒木 ……。

杉浦 荒木。遙ちゃんは荒木に追いかけてほしいんやって。

荒木 ……。

雨音。

ミラ 遙ちゃん、傘持たないで出てったんじゃない？

荒木 ……。

間。

麻子 荒木君！

荒木 関係ないやん。

杉浦 何やってんねん。

荒木 ……。

麻子 今追わんかったら、確実にさよならやで。

荒木 ……。

ミラ ……荒木君、今ならまだ追いつける。

杉浦 追いついたら駄目です。

荒木 ……荷物見てて。戻って来るから。

麻子 あ、ついでに卵買って来て。

荒木 は？

麻子、紙幣を渡す。

麻子 その辺のコンビニで。

荒木 その辺で。

杉浦 ラーメン屋あるやん。

荒木 何処の？

杉浦 ほら、大将が女装してる。

荒木 ああ。

杉浦 その隣にあるわ。

麻子 一。バック。お願いな。

荒木、行きかけて。

麻子 ああ！ ニバック。

荒木 ええ？

荒木、遙を追いかけて出て行く。

麻子 トロいな。

杉浦 遣い頼むからやろ。

麻子、杉浦を叩く。ひたすら叩き続ける。

杉浦　　ちよ、何でや。待って麻ちゃん！　痛い！　痛いって！

徐々に激しくなる麻子。

杉浦　　痛いって！

麻子、懷に持っていたかんざしを取り出して構える。

杉浦　　仕事しろよ！

麻子、真顔でかんざしを杉浦に突きつけてくる。

麻子　　仕事……。

杉浦　　わああ！　ちよ、何すんねん！　ちやうって！　そっちの仕事とちやうって！

麻子、攻撃をやめる。

ミラ 杉浦君メール来てるよ。

杉浦 え？

ミラ 杉浦君メール来てるよ、杉浦君メール来てるよ、杉浦君メ。

杉浦が携帯を開くとミラ、言いやめる。

杉浦 ……。

杉浦、メールを確認する。

杉浦 ……。ミラさん、みんな探してますやん。

ミラ え？

杉浦、電話を掛ける。

杉浦 ……もしもし。ミラ親衛隊関西第五支部第四席の杉浦です。

麻子 ……。

杉浦 ……はい。よろしいですか。会員ナンバー00021、認証ナンバーK

0542219です。

間。

杉浦 はい。えっと、姫と今一緒にいるんですが。……はい。愛車をインキーして、J

AF待ちです。で、携帯もトラックの中です。……はい。……あ、お願いします。

……二の七の十八。間違いないです。それと第一級通達お願いしたいんですが。

……はい。JAFに勤務してる親衛隊員がいたら、便宜を図ってもらおうようお願いします。……今探してくれてる、はい。ああ、こっちに向かったJAFの車に落雷で次のJAFが……。わかりました。はい。お疲れさまです。

杉浦、電話を切る。

杉浦 ということです。

麻子 いや、何それ。

松岡登場。ミラに珈琲を出す。

ミラ ありがとう。

松岡 あれ？ 二人は？

麻子 出てった。

松岡、床に手をついて落ちこむ。

麻子 （松岡に）ごめん……。

麻子、床に手をついて、頭を垂れる。

ミラ 荷物置いてってるし。すぐ戻って来ると思うけど。

松岡 そっか。戻って来るよ。ああ、気にせんとって。もともと俺が悪いねんから。

麻子 ……吐きそう。

松岡 え？

麻子 ちよっとじっとしてたらよくなるから……。

麻子、その辺で眠る。

杉浦 ……何この店？

松岡 気さくでしょー。

ミラ 時間あるし、歌詞でも考えよっかな。

杉浦 お。

ミラ 杉浦君、何かアイデアない？

杉浦 うーん。

ミラ、歌詞を書き始める。

松岡 音楽やってはるんですか？

杉浦 ベビーパウダーって知ってる？

松岡 嘘？

杉浦 知ってる？

松岡 ああ、透け透けセーラー服じゃないから気づきませんでした。

杉浦 ちゃうちゃう。トリスさんやなくて。

松岡 姫？

杉浦 「姫」って呼ぶってことは？

二人、財布から隊員証を出す。

二人 おお。

杉浦 関西第五支部第四席の杉浦です（敬礼）。

松岡 元関西本部特殊工作班の松岡です（敬礼）。

杉浦 特工か！

松岡 ミラさん、パンチドランカーとか言うてすいませんでした。

ミラ どういたしまして。

松岡 杉浦君。親衛隊は身近な人の恋を応援するのが基本原則やろ。

杉浦 荒木と遙ちゃんのこと？

松岡 そうや。

杉浦 あいつらな、ほっといたらたぶん別れてた。「空気が澱めば窓を開け、冷たい風を

入れればいい」……。

松岡 ……ミラさんの歌詞やないか。

杉浦 実践した。

松岡 何であんな歌詞書けるんですか。

ミラ うーん。思ったことをそのまま言葉にしてるんだけど。

松岡 好きなフレーズとかよう使わせてもらいました。

杉浦 そうそう。

松岡 自分何か書いてるん？

杉浦 日記に。

松岡 日記な。……凄い凹んでた時があって、その時にめっちゃあの曲聴いてました。

ミラ あの曲？

松岡 ♪拗ねて唇突き出す癖や……。

ミラ、歌い始める。

♪拗ねて唇突き出す癖や

風呂上がりに缶ビールを飲む習慣

洋楽聞くようになったのも

全部 君の爪跡

君と会わなくなって 随分経つっていうのに

君はまだ僕のことを染め続けてる

君の中にはあるのかな 僕の色が

何処か一カ所でもあるのかな 僕の色

松・杉 うおおお！

松岡と杉浦、キャツキヤ言う。

杉浦 この後ろ向きな感じがいいんですよ。

松岡 そうそう。

杉浦 一人称ボクって多いですね。

ミラ そうかも。そっちの方が歌詞にしやすくて。

松岡 めっちゃ自分に当てはまったんですよ。

ミラ 塗り変えられた部分？

松岡 ええ。ベビパ聴くようになったんもそうやし。……けどその相手はまた別の人の

影響を受けて。

杉浦 昔あったな。片思いの子に彼氏おって、普通女の子があんま興味持たんようなジャ

ナルの曲とか聞いているねんな。そういう話を嬉しそうに話してくんのがまた辛い、

みたいな。心の中で凹んでんのに、上辺では笑っ聞聞してる自分、みたいな。

松岡 ミラさんって何でそんな才能あるんですか。

杉浦 そら小さい頃からずっと音楽やってたんでしょ？

ミラ ううん。

杉浦 ちゃうんですか？

ミラ 学生の頃までは演劇やってたんです。

杉浦 演劇？

ミラ うん。こっちの世界に入ったのは卒業してから。

杉浦 ああ、ミラさんの書く恋愛劇とか面白そう。

ミラ ……ずっと麻子の方が書く才能あったからね。

松岡 吉野と一緒にやってたんですか？

ミラ うん。

松岡 へえ。演劇続けようとは思わなかったんですか？

ミラ ……いろいろあってね。

松岡 いろいろ？

ミラ 秘密です。

杉浦 ミラさんっていつからミラさんなんですか？

ミラ え？

杉浦 ミラさんになる前とかあったんかなって。

ミラ 秘密です。

荒木と遙、戻って来る。

杉浦 荒木。

麻子、起きあがる。

松岡 よかった。

麻子 戻って来た？

荒木 外えらいことになってるで。

松岡 え？

遙 凄い渋滞出来てる。

松岡 渋滞？

遙 トラックが邪魔で。

松岡 そら、こんな狭い一通に止めてるから。

車の警笛。

荒木 これ、卵。

荒木、麻子にコンビニの袋を渡す。

麻子 ありがと。

ミラ ちょっとしばいて来ます。

荒木 え？ ミラさん？

ミラ外へ。松岡と杉浦も舎弟のようについて行く。

麻子 荒木君もついてたげて。この卵なくなるまでぶつけといで。

荒木 は？ 何でやねん。何のために買って来させてん。

麻子 こんな時のために。さあ。

荒木、渋々外へ。

麻子 よかった。戻って来て。

遙 ……。

麻子 荒木君何て？

遙 ……俺も時間作らんで悪かったって。

麻子 そっか。遙ちゃんも謝ったん？

遙 ……うん。

麻子 ほんならシー一緒に行くん？

遙 うん。

麻子 二週連続？

遙 二週連続。

麻子 ランドに変えてもらったら？

遙 シーって決めてたから。

麻子 そっか。……あとはほんならJAFが来るのを待つだけやな。

遙 麻ちゃんさんって演劇やってるんですか？

麻子 え？

遙 それ。

遙、衣裳の入った段ボールを指さす。「麻子」と書かれた箱もある。

麻子 ああ、うん。

遙 ……大学のときもしてました？

麻子 え？ うん。何で？

遙 ウチ、もしかしたら麻子さんの後輩かも。

麻子 劇団機械少女？

遙 はい。

麻子 ……機械少女？

遙 はい。

麻子 そうなん？ えっと、幾つ下になるんやろ。

遙 えっと……。

麻子 てか何でウチのこと知ってるん？

遙 だって、その頃のチラシとか脚本とか残ってますもん。麻子先輩、劇団立ち上げ
たんですよ。

麻子 うん。

遙 あの、ウチの団員と稽古、見学行ってもいいですか。

麻子 来て来て。

遙 はい。

麻子 そっか。まだ残ってるんや。機械少女。え？ 役者？

遙 はい役者。でも一応脚本書きたくて入ったんですけど。

麻子 お。ライバルやん。

遙 全然そんな。部室に残ってる昔の台本は全部読みました。

麻子

ウチのも？

遙

読みました。

麻子

マジで？ ええ？ めっちゃ幼稚やったやろ？

遙

いえいえ、面白かったですよ。麻子先輩の時代と比べたらレベル落ちてますけど。

麻子

顔の？

遙

……。

麻子

ごめん、演技の。

遙

大人げないですね。

麻子

うんよく言われる。

ミラ、一旦戻って来て、小道具箱から覗いていた拳銃を手に再び外へ。

遙

折角やからいろいろ聞きたいことあるんですけど。

麻子

聞いて聞いて。

遙

学校のホールで本番中に鳩飛ばして活動停止になりかけた年も麻子先輩の時代ですか。

麻子
そうそう。

間。

麻子
終わり？

遙
えっと、あの部室の落書き、麻子先輩の頃からあるんですか？

麻子
落書き？

遙
『脚本家にとって、千秋楽の夜は特別な時間……』

麻子
『自分の作った世界が形になる、そんな幸せな時間を一番大切な人達と共に味わい

たい』やろ。ウチが入る前からあったで。昔の芝居の台詞やろな。

遙
へえ。

もの思いにふける麻子。

遙
……どしたんですか？

麻子
……ううん。機械少女か。もうウチのこと知ってる子なんかおらんと思ってた。

遙 ショウコ先輩って人と同じ回生ですよね。

麻子 よう知ってるな。

遙 タミイエ先輩が大学院におるから。

麻子 民家龍子？

遙 はい。

麻子 まだ顔出してんの？

遙 出してます。

麻子 そっか、龍子八回まで行って今は院や言うてたな。

遙 麻子とショウコと龍子で、三人合わせて『栃東』って呼ばれてたって。

麻子 ううん、アサショウリュウ。

遙 ショウコ先輩ってどんな人ですか？

麻子 え？

遙 何か麻子先輩といろいろあって途中で辞めたって。

麻子 うん。

遙 全然会ったりしてないんですか？

麻子 そっか遙ちゃん知らんのか。今日久しぶりに会ったわ……。

遙 え？

麻子 ショウコ。

麻子、外を指す。

遙 マジっすか？

麻子 劇団辞めてよかったんやろうな。今はファンもおるみたいやし。

遙 何があったんですか？

麻子の手にかんざし。

遙 ……かんざし？

麻子 おばあちゃんの形見やねん。

遙 ……何があったんですか？

麻子 ……ウチに告白してきてん。

間。

遙 え？ 告白——！?

麻子 ——シィッ！ ……今でも覚えてるわ。ガクガクウて足震えて怖い顔して。しかもちよつと泣いてるし。

遙 嘘……。

麻子 ウチ、めっちゃ引いてた。

遙 ほんで、どないしたんですか？

麻子 ……断った。

遙 そら、そうですね。何かそんな話聞いたら、見方変わるなあ。

麻子 丁度今日みたいな二月の一番寒い日やった。で、その時稽古中やった『血まみれバボちゃん』が終わってすぐに辞めてってんけどな。

遙 ……あの、かんざしは何処で……。

麻子 何？ え？

遙 かんざし。

麻子

何で？

遙

何でって……。

荒木、戻って来る。杉浦、松岡、ミラ、戻って来る。

杉浦

JAF来た！

一同一斉に出かける準備をする。

麻子

荒木君、まだ間に合うやろ。

荒木

上で行けば。

ミラ

大阪駅まで？

荒木

はい。お願いします。

麻子

……ウチの荷物も載る？

ミラ

載るよ。

麻子

ほんなら、みんなこの辺の荷物載せるの手伝って。

全員 おう！

遙 幸助。

荒木 ん？

遙 前にウチのＯＢで吉野麻子って先輩の話したやろ。

荒木 うん。

遙 麻子先輩。

荒木 そうなん？

麻子 吉野麻子です。

麻子、奥へ。松岡、椅子を運び出そうとしている。

荒木 店長、何で椅子まで運んでるん？

松岡 え？ いや、その、明日ね、テーブルも椅子も新しいのが入るんですよ。それで

今のを吉野の劇団にあげることになって。

荒木 はあ……。

松岡 ミラさん、飲んでないですよね。

ミラ 飲んでないです。

荒木 ミラさん、今日、社長のトコには行きます？

ミラ ううん。打ち上げ行つて帰る。

遙 あれ？ せや、パパがおるんや。

杉浦 打ち上げかあ。いいなあ。

ミラ 良かったら一緒に来ます？

杉浦 いいんですか？

ミラ 杉浦君が良ければ。

杉浦 しゃ！

ミラ 店長さんは？

松岡 いや、ちよっと今からは……。

杉浦 そっか。残念やな。

ミラ あの……。

松岡 はい？

ミラ ここから高速つて？

松岡

その一通の次の信号ででっかい道にぶつかるから、左にずっと真っ直ぐ行ったら
高速の入り口の標識見えますわ。

ミラ

でっかい信号機にぶつかって……。

杉浦

俺わかりますから。

ミラ

あそう？

ミラに確かめたいことがある遙。

遙

……ミラさんって、麻子先輩と同じ学年やったんですね。

ミラ

え？ うん。

遙

やっぱ合ってるんか。

ミラ

高校のと同じ演劇部で。

遙

高校？ え？ 機械少女は？

ミラ

麻子のいた所でしょ。見たことないけど。……麻子の後輩？

遙

はい。

ミラ

私には演劇はただの部活動だったんだけどね、麻子はその通り演劇命な感じで

しよ。その辺が合わなくて、ぶつかったりしてさ、ずーっと気まずい感じが続きちゃって。けど、今も麻子が頑張ってるの知ったし、麻子も私が高校卒業してから音楽で頑張ってること知っててくれたし、うん。

遙 ……シヨウコさんじゃないんですか？

ミラ シヨウコさん？

遙 ん？ ……ミラさんて、下の名前何て言うんですか？

ミラ これ本名なの。横嶋深楽。深い楽しみてミラ。

遙 ……？

荒木、ポケットを探っている。

遙 どうしたん？

荒木 あらへんねん。

遙 何が？

荒木 チケット。

全員 えええ？

遙 財布は？

荒木 みたけどなかった。

遙 七回捜した？

荒木 七回？

杉浦 俺一回も触ってないし。

遙 ウチも。

松岡 ポケットは？

麻子、最初の服に着替えて戻って来る。

麻子 乾いた乾いた……。どうしたん？

松岡 チケットがないって。

麻子 え？

荒木 ええ？ どこ行ったんや。

ミラ 鳴らしてみたら？

全員 何を？

麻子 最後に見たのは？

荒木 ここでさっき出したから。

杉浦 ああ、意味なく投げつけて。

荒木 意味はおまえやろ！

麻子 喧嘩しいひんの！

杉浦 で、店長が拾って。

松岡 荒木さんに渡して。

麻子 トイレは？

荒木 行っていない。

遙 そういえば幸助、今日一回もトイレ行っていないやん。

麻子 え？ 一回も？

遙 ここ来るまでも缶コーヒー二本も飲んだのに。

杉浦 ちよ、待って。みんな一日何回くらい行くもんなん？

遙 ウチさっき行った。

杉浦 行ってたな。冬の方がよく行くよな？

ミラ 冬の方がよく行くよね。

荒木 トイレの頻度チェックはええからチケットを！

麻子 みんな自分の財布確認しよう。

ミラ あ！

荒木 ありました？

ミラ 財布がない。

全員 えええ？

杉浦 トラックちゃうんですか？

ミラ トラックじゃなくて財布。

杉浦 じゃなくてトラックの中に。

ミラ ジュース買うときに持ってたもん。

麻子 一応トイレ見て来る。

麻子は奥へ。松岡は外へ。

遙 どんな財布ですか？

ミラ　　こんな、お金の入った……。

荒木　　あのチケットを……。

杉浦　　店長に探してもらったといとにかく先バス乗れって！

荒木　　なかったら行っても入れへんやんけ！

杉浦　　わかってるけど、探してる時間ないんやろ。予約してんねんから、向こうで名前言うたらわかるやろ。

麻子、戻って来る。

麻子　　あった！

荒木　　ふう。

麻子　　これちゃう？　財布。

荒木　　財布か。

ミラ　　違う。

麻子　　え？　誰の？

荒木　　店長のと違うん？

麻子　かな？　あ、ホンマや免許証入ってるわ。写真見たろ。

麻子、免許証を見る。で、無言で財布に戻す。

麻子　誰やこの人。

荒木　誰の財布？

遙に財布が回ってくる。

遙　これって他のお客さんが忘れていったんとちやいます？

麻子　う、うん。そうかも。

遙　また取りに来ますよ。

麻子　うん。そうやね。えええ？

遙、財布から紙幣を二枚程抜いてポケットへ。

遙 チケット入ってる。

荒木 デイ○ニイシーの？

遙 イズミーシー！。

全員 えええ？

杉浦 もうイズミーシーでええやん。

荒木 行っでどうするねん！

ミラ それです、財布！

四人 え？

ミラ それ、うちのスタッフのなんです。ライブ会場で忘れてたから預かってて。で、ジュー

ス買うときに私の財布鞆から出すの面倒くさくて、それで。

杉浦 そっか。よっしゃ。ほなみんなトラックに。

遙、紙幣を戻し、ミラに頭を下げながら返す。

荒木 いやあの、俺のチケットが。

杉浦 まだ見つからへんのかいな！

荒木

全然探してくれてへんやんか！

遙

……もっかいポケット見てみたら？

荒木

うん……。

遙と杉浦、メガネメガネ風に床の上を探している。

荒木

おまえら探す気ないやろ。

麻子

チケツト出て来い。(まじない)

荒木

普通に探してくれよ！

松岡、凍えて戻って来る。

松岡

外に落ちてた。

杉浦

おお！

荒・杉・遙・ミ 凄いな、麻ちゃん！

荒木

焦ったあ。助かったわ、麻ちゃん。

杉浦 今のどうやってたらできるん？

ちやほやされて照れ笑いの麻子。

松岡 外寒かった！ 外寒かった！

みんなにかまわれながら、麻子の視線は松岡へ。

ミラ じゃ行こっか。

杉浦 俺、ちよつと家戻って来ます。

荒木 そんな時間ないって！

杉浦 すぐ裏やから。ゲームつけっぱなしで出て来てもうて。

杉浦、出て行く。

松岡 自分か！ 毎晩夜中にゲームやってんの！

遙、ミラ、出て行く。

松岡 ホンマ、なんちゅう一日や。これで土日確保か。けど、二日増えたからって書け

るんかな。

麻子 大丈夫大丈夫。

松岡 吉野の大丈夫は昔から根拠がないからなあ。

麻子 へえへえ。

松岡 けど何でかいつも大丈夫やって思えてくる。

麻子 フフ。

荒木 さっき聞きそびれてんけど。

麻子 ？

荒木 劇団やってるんやんね。

麻子 知ってんの？

荒木、名刺を渡す。

荒木 ネットで舞台とかお笑いとか音楽とか野菜とか配信してる会社やねん。ドラマ制

作もしてて、吉野さんとこの役者さん使おうって話が出ててさ。

麻子 ホンマ？

荒木 遙が教えてくれて。また連絡するわ。

麻子 うん。

荒木 今日千秋楽やったんやろ？

麻子 うん。

荒木 俺、行かれへんかってさ。絶対次見に行くわ。

麻子 期待しといて。

荒木 せやせや、俺の同僚が昨日見に行ってんけどさ。持ってた差し入れ食べんとっ

てほしいって。

麻子 そうなん？

荒木 当たったらしいわ。ごめんな。

麻子 ええ？ まだみんな食べてないと思うけど。どの差し入れやろ？

荒木 「祝公演」の字を間違えて書いたって。

麻子 ……ああ。

松岡 ……ああ。

ミラ、外から顔を覗かせる。

ミラ 麻子、乗せるのこれだけ？

麻子 うん。あ、看板や。

ミラ、また外に戻る。麻子、看板を持って出る。

松岡 あの。

荒木 ？

松岡 お勘定は誰が？

荒木 ……え？

松岡 お勘定。

荒木 ……もうええって。ここ、ホンマは喫茶店ちゃうんやろ？ 麻ちゃん看板まで乗

せてるやん。

松岡 えっと……。

荒木 いやな看板出てたから喫茶店やと思うて入ってんけど。最初からおかしいと思っ

ててん。何処にも営業許可証貼ってないし。

松岡 そこか……。

荒木 ごめんな、俺も最初の方さ頭にかあって血いのぼってたから。ホンマ冷静に判断

したらわかることやのに。

松岡 でも珈琲とか飲んでるし……。

荒木 けど何か急に事情があったんか、喫茶店でも何でもないのに喫茶店っていうので

話合わせてたみたいな感じやったけど。何で？

松岡 ……それはですね。あの。……それ答えても、遙ちゃんとディ○ニィシーに行く

のは変わらへんって約束してくれます？

荒木、少し考える。

荒木 ええよ。窮地を脱したの、店長のお陰なんやし。あ、店長ちゃうか。

松岡 実は、僕が松岡なんです。

荒木 ……え？

松岡 脚本の。

荒木 脚本？

松岡 日曜の晩にはメールで入れときますんで。

荒木 メール？ 何の？

松岡 ……せやから戯曲……。

荒木 え？ 何で？

松岡 何でって。だって。え？

荒木 ……え？ 何のこと言うてる？

松岡 僕、松岡ですけど。

問。

荒木 え、それって俺が電話で松岡先生の話してたから？

松岡 えっと……。

荒木 松岡先生って女の人やねんけど。

松岡 よく間違えられるんですよ。

荒木 五十代のサイババみたいなおばさんやけど。サイババっていうかサイバイマンっていうか。

松岡 ……え？

荒木 何か話が食い違ってるみたいやね。

遙と杉浦戻って来る。杉浦、腹痛らしく顔を歪めている。

遙 幸助、早く！

荒木 何か知らんけど、頑張ってな。ほな。今日はホンマありがとう。

荒木達、出て行く。

松岡 ……花火中止になれえ！（まじない）

溜息をつく。

松岡 腹減った。晩飯食べてないんや。……またラーメンかな。……今週何回目かな？

麻子、戻って来る。

麻子 さあて、飲み直しや。

松岡 吉野？

麻子 ん？

松岡 乗ってかへんかったん？

麻子 え？ 荷物だけやで。降ろすのは、向こうにうちの劇団の子が待ってるし。

松岡 いや、場所わからんのちゃうん？

麻子 大丈夫大丈夫。

松岡 それより、ちゃうかってんて！

麻子 ごめん、ちょっと待ってな。先、電話せなあかんから。

松岡 時間返せえ……。

麻子、電話を取る。

麻子 吉野です。あ、お疲れさま。……うん。遅れるんやろ。聞いてるよ。何でって、今

その松岡先生の家におるから。

松岡 ？

麻子 めっちゃええ感じの話になってる。あとちょっと直しただけしてもらって。……そう。
後は任しといて。ええの書いてもらっからはいい、いい、ほなお疲れさま。あいあい。

麻子、電話を切る。

松岡 ちょっと待って。

麻子 何？

松岡 どういうこと？

麻子 え？

松岡 どういうこと？

麻子 せやから……。えっと、ちょっと説明すんのに時間かかりそうやなあ。……まあ

飲みながら聞いてくれる？

松岡 何やわからんけど飲むわ。……いや終電ないんちゃうん？

麻子 ええからええから。再会を祝して乾杯や。

松岡 何年も会ってなかったのが突然酔っぱらって来たかと思えば……。てか、脚本は？

麻子 大丈夫大丈夫。

松岡 ……。

麻子 なあ、将己（ショウコ）ちゃん。

松岡、ビールを吹き出す。

松岡 ……下の名前で呼ぶなよ。

麻子 大学の時、みんなに呼ばれてたやん。

松岡 嫌やったの。大体吉野は、その呼び方したことなかったやん。何で急に……。

麻子 遙ちゃんな。

松岡 うん。

麻子 今、機械少女におるねんて。

松岡 そうなん？

間。

松岡 そっか、まだあるんや。……そっか、タミイエ先輩って龍子のことか……。

妙な間。

麻子 松岡の本な、彼氏が凄い気に入ってるねん。

松岡 ……彼氏？

麻子 そう。それで松岡に次の本頼めたらええなって話になって。

松岡 え、ああ、そう。……そうなんや。

麻子 ンフフ。

松岡 そっか。

松岡の顔を見ている麻子。

松岡 何？

麻子 ううん。

間。

松岡 あのさ、本、ちゃんと仕上げとくから、タクシー代なかったら出したるし、やっぱり今日は帰つ……。

麻子 嘘。

松岡 ……え？

麻子 彼氏はおらん。

松岡 え？

麻子 明日、どっかぶらっと行かへん？

松岡 いや、脚本は？

麻子 ……せやな。やっぱ帰るわ。

松岡 え？

麻子 駅まで歩いてったらまだ終電間に合うし。

松岡 あ、うん……。

麻子が電池を入れた時計のアラームが鳴る。針は十二時丁度を指している。麻子、アラームを止める。

麻子 十二時にセットしてたから。

松岡 ああ……。

間。

麻子 魔法切れてもった。

松岡 え？

麻子 ううん。ごめんな急にきて。

松岡 いや。そんな。

麻子 ほな、また。本よろしくな。

松岡 うん。気、つけて。

麻子 おやすみ。

麻子、出て行く。松岡、寝転がって天井を見ている。静寂の中で響く時計の音。松岡、煙草の箱に手をやるが、空箱で。財布を持って外へ。

松岡、麻子を連れて戻って来る。

さっきとうって変わって酷く緊張した顔の麻子。

松岡 どうしてん、あんな寒い中突っ立って。風邪引くって。忘れ物？

麻子、首を振る。

松岡 本の話？

麻子 そやないねん。

松岡 ほな……。

麻子 ……そのために今日来たとちゃうねん。

松岡 ……？

麻子 ウチがここに来たんは、ずっと、言えんかったことを言うためやねん。

松岡 ……ん？

麻子 松岡、ウチに告白したやん。

松岡 ？

麻子 ……今でも覚えてるわ。ガクガクウて足震えて怖い顔して。しかもちよっと泣いてるし。舌は嚙むし、お腹はぐるぐる鳴ってるし、言い終わってトイレに駆け込むし。もうぐだぐだやった。

松岡 まあその話は……。

麻子 ウチ、めっちゃ引いてた。めっちゃ。次の日、みんなにいろいろ言われたんちゃう？

松岡 ……。

麻子 ウチが言いふらしたから。……あの時の松岡、ずっと忘れられへん。あれから何人にも告られたけどな、薄い薄い。

松岡 ……したかったんはその話なん？

麻子 ……。

松岡 もうええやん。めっちゃ引いてたんわかったよ。せやから俺が劇団おったらやり

にくいやろって思ってた距離置いて、俺の方もようやく三日に一日くらいは思い出
さへん日もできはじめた。せやのに、何で風化させてくれへんね——

麻子 ———と松岡のことが気になってた。

松岡 ……。

麻子 何であの日、引いてもうたんやろ。

松岡 ……。

麻子 思いが強いとあかんね。こんな台詞用意してたんとちゃうのに。ずっと、ずっと
考えてたのに、頭ン中真っ白や。アホや。

掌底で目尻を押さえる麻子。

松岡 俺のこと眼中にないって。

麻子 ……後になっていろんなこと知った。ウチが機械少女のやり方に反発した時も、松

岡一人だけウチのこと支持してくれてたって。鳩飛ばして学校側に活動停止って

言われた時も、松岡が走り回って処分取り消してもらったって。『血まみれバボちゃん』の千秋楽でウチが衣裳に貸してたかんざし、無くしたって聞いて、みんな打ち上げに行ってるのに、松岡ひとり大学に残って朝までかかって探してくれてたんやろ？ ウチそんなこと知らんかって……。……次の日、無くしてなんかないでってあっさり答えてもうた。……卒業してから聞いてん。あの日、一個下の男の子が松岡を打ち上げに呼ばんために、そんな嘘ついたって。呼んでたら、ウチと松岡が引っ付く思ってたからって。

松岡 ……吉野、人気あったから……。

麻子 かんざし、お婆ちゃんがくれた奴やってん。

松岡 うん。

麻子 ……千秋楽の夜は特別な時間やのに。……あの日も、今日みたいに凄く寒い日やったのに。さっきチケット見つけて来た時、松岡笑ってた。けど朝まで探して見つからんなんて、そんな絶対しんどいやん！

松岡 俺が勝手に探しただけやし……。

麻子 何であんな緊張して告白してきたんかも龍子に聞いた。龍子と中学も一緒やって

んてな。中学の時、松岡、好きな子に告白して、ショウコのくせにキモって酷いフラれ方したって。それがあったのに、また自分から告白できるようになったんやなって。

麻子のぎゅっと握った手の中にはかんざし。

松岡
……。

麻子
今はわかるねん。あの日の松岡の気持ち。凄く怖いし、口から胃が出そうになってる。緊張せんように酒飲んでたのに、肝心な時に魔法切れてもうてるし。あのときウチが取った行動を許せへんなら、それでもええ。けど、ウチは凄く後悔してるってことを言いたかった。

松岡
……。

麻子
もっぺん、ウチに告白してほしい。

俯く麻子。

松岡 ……時間がな。

麻子 時間？

松岡 止まってた。

麻子 時計？

松岡 じゃなくて。時間。俺の中の。麻子が今日来るまで。……俺、やっぱり。

麻子 やっぱり？ やっぱり何？

間。

松岡 えっと……。

麻子 ……。

松岡 ふう……。

松岡、顔は平静を装うが足が震えている。

麻子 ……大丈夫。大丈夫やから。今度はちゃんと聞いてるから。聞いてるから。

麻子、じつと松岡を見ている。

松岡 ……あ、あきれられ。

麻子 ……。

松岡 嘸んでもた……。

麻子 ええねんええねんええねん！

松岡 諦められへん。やっぱり好きやし……。

麻子 ……うん。

松岡 ……うん。

麻子 ……うん。

松岡 ……うん。

間。

麻子 ……じゃあ、前の時は、松岡の気持ちろくに考えずに答え返したけど、今回は真

剣に聞いた上で返事するから。

松岡 うん、え？

麻子 松岡がウチのこと思ってくれてて凄く嬉しいんやんか。

松岡 ……うん。

麻子 でもウチは、松岡の気持ちにはな。

松岡 ……。

麻子 応える……。

間。松岡がしばらく麻子の言葉の続きを待っていたが。

松岡 ……応える、何？

麻子 ……応える、……よ。

松岡 ？ ……応える？

麻子 ……よ。

松岡 ……その前の文に「逆接」入ってたけど。

麻子 ちょっと間違えた。

松岡 凄い紛らわしい。

麻子 自分でも思った。

松岡 ……OKってこと？

麻子 ……うん。

松岡 OKってこと？

麻子 うん。

間。

二人 ふう。

麻子 って感じのハッピーエンドを書いてほしいな。

松岡 え？

麻子 どう？ 朝までには仕上がるやろ。

松岡 今から？

麻子 締切十二時やってんし。

松岡 はあ。

麻子
なんちゃって。

笑う麻子を見て大きく息を吐く松岡。

松岡
あっつ。凄い汗。

麻子
……ありがとう。来てよかった。

松岡
打ち上げ、行かんでよかったん？

麻子
……特別な時間になったよ。

松岡
……そっか。

麻子
……夜食買いに行こっか。

松岡
うん。ラーメン食へに行く？ あ、ラーメンあかんかってんな。

麻子
めっちゃ食べるで。というか主食。

松岡
へえ、大学ン時、あんだけ毛嫌いしてたのに食べるようになったんや。

麻子
松岡がいつも美味しそうに食べてたからやん。

松岡
……。

ミラの歌が松岡の脳内に流れる。

「君の中にはあるのかな 僕の色

何処か一カ所でもあるのかな 僕の色」

麻子 どうしたん？

松岡 ううん。

麻子 近くに美味しいところある？

松岡 うん。ただ、ちよつとそここの大将が変な人で……。

麻子 女装してる？

松岡 知ってるん？

麻子 そこいこ。

麻子と松岡、部屋を出て行く。終。

挿入歌

♪朝の九時から焼き肉食ってる

会社に行く気になれなかったから
一人で来るのもたまにはいいかも
取り敢えずタン塩十二人前

夕べの君の言葉が

頭の中で回ってる

燃える炭で頬がア・ツ・イ

「サイテー」なのはどっちだよ

厨房で牛も泣いてる

全て肉で流し込んでやる

網が汚れれば替えればいい

肉がなくなれば頼めばいい

空気が澱めば窓を開け

冷たい風を入れればいい